

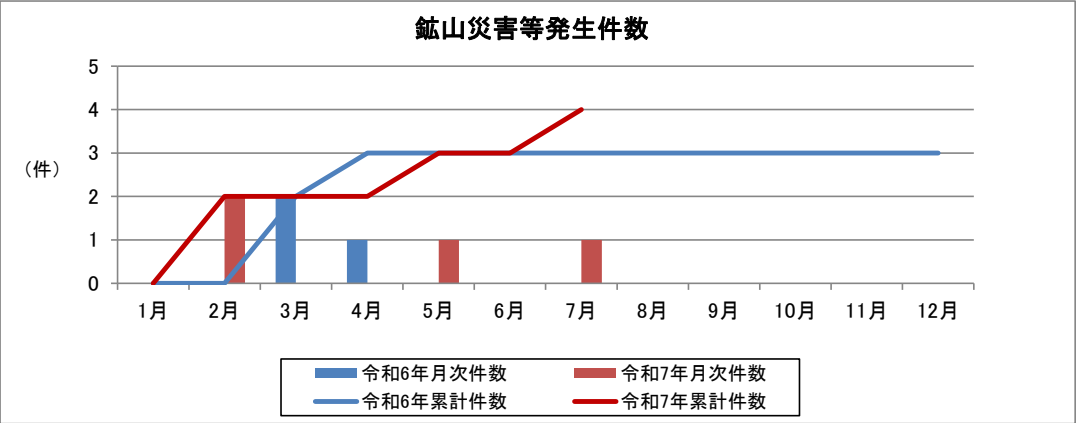
【令和7年】

■管内における事故発生状況(7月速報値)

※数値は事故速報ベースであり、各月のデータ積み上げが年累計と異なる場合があります。

○鉱山保安法関連(災害等)

災害等の種類	令和7年7月分				前月件数	前年同月 件数	令和7年累計				令和6年累計			
	件数	死傷者数					件数	死傷者数			件数	死傷者数		
		死	重	軽				死	重	軽		死	重	軽
火災							1							
取扱中の器材鉱物等のため														
運搬装置のため(車両系鉱山機 械又は自動車のため)														
運搬装置のため(その他)										3		3		
墜落														
転倒							1		1					
灼熱・溶融物のため														
落下物又は倒壊物														
その他	1		1				2		2					
合 計	1	0	1	0	0	0	4	0	3	0	3	0	3	0



【発生年月日】 令和7年2月15日

【場所(県名)】 山形県

【事業者区分】 非金属鉱山

【災害の種類】 その他

【災害の概要】 製品が入った袋(約25kg)の重量を再確認しようと、袋を持って移動していたところ、機械の隙間に敷いてあった木製台に足を載せた際に、足の甲を捻り罹災した。

【被災の状況】 重傷1名(左第5中足骨骨折)

【発生年月日】 令和7年2月17日

【場所(県名)】 青森県

【事業者区分】 石灰石鉱山

【災害の種類】 転倒

【災害の概要】 発破現場で込め物用の砕砂を入れた袋(30kg弱)を運んでいたところ、躓き転倒して罹災した。

【被災の状況】 重傷1名(右肩腱板断裂)

【発生年月日】 令和7年5月22日

【場所(県名)】 岩手県

【事業者区分】 石灰石鉱山

【災害の種類】 火災

【災害の概要】 鉱山事務所に駐車中のダブルキャブトラックの助手席下のエンジンルームから出火。原因は、何らかの原因により可燃物がエンジンルームに入り、熱源(排気マニホールド)に触れ出火したと推定される。

【被災の状況】 車両1台焼損。罹災者なし。

【発生年月日】 令和7年7月25日

【場所(県名)】 秋田県

【事業者区分】 石油・天然ガス鉱山

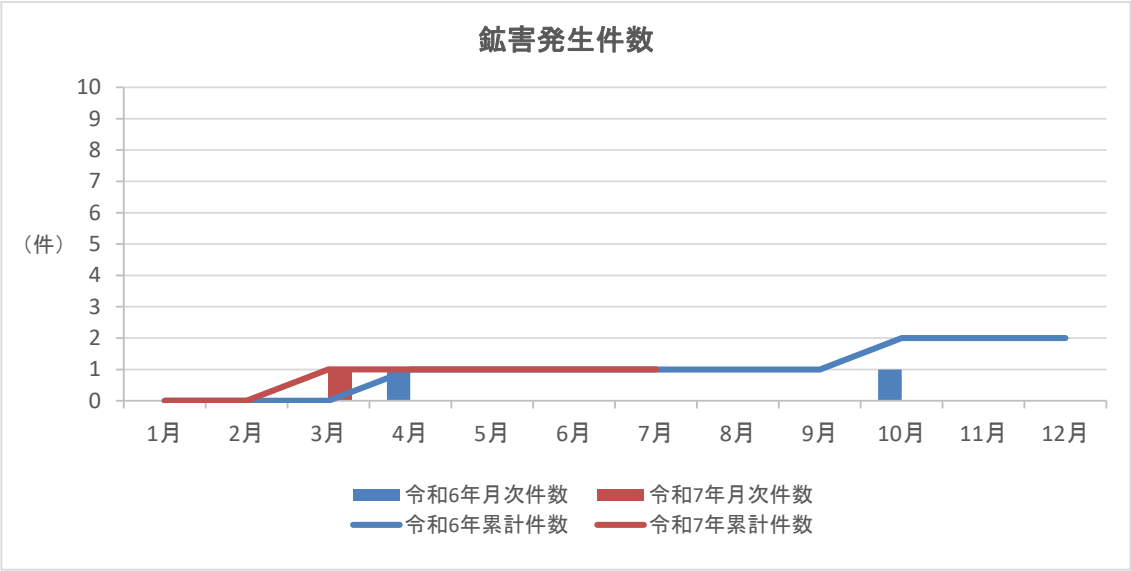
【災害の種類】 その他

【災害の概要】 坑水貯蔵タンクの切替作業中にバランスを崩し転倒し、坑水払出用のパイプラインのノズルを折損させ坑水が噴出。それを止めようとした際、坑水が両目に飛散し罹災した。

【被災の状況】 重傷1名(両眼角膜損傷)

○鉱山保安法関連(鉱害等)

鉱害等の種類	令和7年7月分	前月件数	前年同月 件数	令和7年累計	令和6年累計
坑廃水	0	0	0	1	2
鉱煙					
粉じん					
集積場					
騒音・振動					
その他					
小 計	0	0	0	1	2
その他自然災害に伴う鉱害					
合 計	0	0	0	1	2



【発生年月日】

令和7年3月25日19:00から23:00間

【場所(県名)】

福島県

【事業者区分】

石灰石鉱山(休止鉱山)

【災害の種類】

排水基準超過

【災害の概要】

〈水処理施設の状況〉

当該鉱山は、坑内水が高pH(pH8.6前後)であり、希硫酸による中和処理をしている。希硫酸の添加量は沈澱池排出口のpH値に連動し、自動添加される仕組み。中和処理した水は沈澱池を経由し、沢水と合流し公共河川へ放流される。pH計は希硫酸添加前(処理原水)、希硫酸添加後(沈澱池流入前)、沈澱池排出口の3カ所に設置。沈澱池排水口pH値は、2回/月の巡視時に確認・記録(うち1回は採水分析を実施)されていたほか、連続測定結果がSDカードに記録されている。

〈事故の概要〉

排出基準値(pH値)を超過した排水が公共河川に排出されてたとの連絡あり(3月26日)

超過確認後、直ちに希硫酸添加量を増やし、排出基準はクリア。

なお、河川での魚の斃死等の被害情報は無い。

排出基準超過となった原因は、令和6年4月に同様の事象が発生させたことから点検を強化していたが、業務引継が出来ず、希硫酸添加量を増加することが出来なかったため。